



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Follow Your Rotary Dream

「ロータリーの夢を追い続けよう」

1998～99年度・国際ロータリーテーマ/ジェームス・レイシー会長

「明かるいクラブと豊かな人生」

1998～99年度・東京新南ロータリークラブテーマ/宮武 保義会長

本日の例会 5月28日 第609回例会
第4回クラブセミナー
「奉仕について」
シェルドン著 一奉仕の哲学ーを中心として
会長 宮武 保義 君

先週報告 5月21日 第608回例会

◎卓話

ブッフスタイル例会のため卓話はありませんでした。

◎親睦活動委員会(小原委員長)

6月1日は、今年度最後の火曜会です。柴本会員が「うたと私」と題して楽しいお話と歌(?)を準備していますので皆様是非ご参加下さい。

◎広報委員会(相澤委員長)

『ロータリーの友』では、「職業奉仕月間」にちなみ、10月号で、次の2点につき素晴らしい実績、事例をお持ちのロータリアン企業をご紹介申し上げたいと考えております。

す。①新製品や新しいサービスを開発し業績を伸ばしておられるロータリアン企業 ②経営理念。 つきましては、所定の用紙にご記入の上、クラブ事務所へ6月末日までにご連絡いただきますようお願い申し上げます。

◎出席報告

- 会員72名/出席42名・欠席30名(出席規定免除者5名)
- ビジター7名



5月21日/5件 12,000円
98～99年度累計 1,738,000円
多額のご寄付を有難うございます。

(順不同敬称略)

コンシニ/お久しぶりです。ロンドンから帰ってきました。もう5週間です。食べ物はまあまあですけど新しい仕事は非常にチャレンジングで満足しています。庄司泰典/圓谷さんへ「友もあ会」の写真ありがとうございます。吉田用親/石井さんニコニコ担当ご苦労さまです。村山公士/昨夜は、学校法人設立20年をお祝いするイベントを盛大に行うことができました。ご来場の皆様ありがとうございます。石井謙次/本日初めてのニコニコ担当です。皆様ご協力ありがとうございます。

1999～2000年度地区協議会報告

99年5月21(金) 京王プラザホテル
ホストクラブ:東京日本橋東ロータリークラブ

1. [本会議]

次期幹事 小杉眞史

99-2000年度地区協議会は、5月21日京王プラザホテルで開催された。参加クラブは84クラブ。当クラブからは、田辺パストガバナー、渡部次期会長他8名が参加した。

本会議は村野ガバナーの点鐘で開始され、アナハイムでの国際協議会、クラブ会長エレクトセミナー、本日の地区協議会の目的について説明、更には4月に、グアムで行われた地区大会の報告があった。

小林禮次郎ガバナーノミニーから、次年度R I 会長カルロ・ラビツアのテーマ「ロータリー2000:活動は、堅実、信望、持続」を受けて、重要項目10項目の具体的な説明、それぞれのクラブ内で目標を設定する様呼びかけた。10項目は以下の通り ①R I 会長テーマおよびガバナーのテーマを推進する ②各クラブでロータリーの綱領を熟知する ③4大奉仕をさらに強力に推進する ④地区大会、IMへの参加を推進する。R I 会長地区大会賞に挑戦する ⑤韓国との青少年交換プログラムを成功させる ⑥拡大は最低1クラブ。増強は3%目標 ⑦「R I 会長賞」に挑戦 ⑧出席率は90%以上が目標。⑨R財団一般寄付40万\$、ベネファクター12万\$が目標。⑩米山一般寄付金は、1億1,000万円+αが目標。午後からは、10の部会に分かれて分科会が行われた。

2. [分科会]

◎会長部会

次期会長 渡部一元

パシフィックペイソンを除く、70人余りの次期会長が出席し熱心な討議が行われた。先ず、小林ガバナーノミニーより午前中の本会議でも説明があった次年度方針が再び取り上げられ、特に

数値目標の重要性が強調された。増強は純増3%、米山寄付、財団寄付(例えばベネファクターは50～100人のサイズのクラブでは2名)、出席率90%等についての要請があった。

次いで矢野研修リーダー(パストガバナー)よりR I 会長テーマの推進、ガバナー方針の徹底、各クラブ方針の達成に向けての熱意と献身の必要性が述べられた。増強については、明日のロータリーを担う若い人たちの入会が望まれるとの発言があった。

また、リスクマネジメント委員長より青少年交換留学生を甘やかすリスク、不用意な言動によるセクハラのリスクについて注意があった。その他、複数のガバナー補佐が交々立ち、千年に一度の年度である、思い切って何かをして欲しい、女性会員の問題は避けて通るべきではない等の感想が述べられた。

各次期会長より多くの質問、意見が活発に述べられ、盛況のうちに終了した。

◎幹事部会

次期幹事 小杉眞史

幹事部会では、白石カウンセラーの挨拶で開始された。「会員増強、退会防止」についての情報交換、ディスカッションがなされた。各分区分け、各クラブの実情、行動等報告されたが、私の参加した千代田分区分では、特に目新しい増強案、退会防止案はなかったが、職業分類を見直して「空」を利用して増強を図るとか、退会者の同一会社からの補充の義務づけと入会金の配慮(6ヶ月以内)など世相にマッチした策を講じるクラブもあった。

一方、質の問題も討議され、増強が増量になっては如何なものかという意見もあった。又、退会防止については、当クラブ同様3年未満の会を作ったり、危機感を全会員に持たす横の連携強

化、如何に魅力あるクラブにするか等、多くの意見が出た。特に千代田分区では女性会員が1人も居ないので、地区幹事からどの様に取り組んで考えているかのご質問があったがペンディングとなった。他分区からのまとめの中に今のロータリーの枠組を変えなければ増強は不可能という声も上がっていたが経費負担等考える時期に来ているとの意見が印象的であった。

●**クラブ奉仕部会** 次期クラブ奉仕委員長 西澤正雄
クラブ活性化のために、いかに例会を楽しめるか、会員増強と拡大並びに退会防止についての、2つのテーマを中心に活発な討議や提案が行われた。

先ず、あまり堅苦しいことばかりいってないで、楽しく、面白いクラブにしていけることが大事。それには卓話が大きな決め手で、極力メンバーでやるのも良い策。3年未満の退会が増えていることに問題意識をもつべきで、趣味の同好会やオリエンテーションの充実が必要。又、時節柄お金のかからない運営も心がけたい。

増強は、企業のリストラといった世の中の流れの中でロータリーだけが増強、拡大といっても中々むずかしい。前回のIMで統合もあるとの話があったが、又女性問題は どうする、等の意見も出された。

カウンセラー(パストガバナー中村健二郎氏)から、友達をつくらうというところから始まったロータリーは1905年のまだ荒廃たる時代に驚異的にメンバーが増えていったという原点を思い起こし、活気あふれるクラブを、そして奉仕の実践がすすむように、というご挨拶で締めくくられた。

●**職業奉仕部会** 次期職業奉仕委員長 関 征春
地区職業奉仕委員会のカウンセラー漆崎氏から、ロータリーの金看板で網領の2番目を理解し、思いやりの心で社会から受けた恩恵は、社会にかえすよう努力してほしいと説明された。

次に地区職業奉仕委員長の杉山氏から、職業奉仕の範囲は、クラブとロータリアンの創意によって無限に広がる。ロータリアンは自己の職業に基づいてクラブで職業分類されているのであるから、職業奉仕は、すべてのロータリー・プログラムを遂行する上で不可欠な要素である、と解説され、特に環境と職業の関係で公害問題等の経営モラルを力説された。

次に「職業奉仕月間における楽しいクラブフォーラムの開催」についてディスカッションの時間がもうけられたが、各クラブの自主性で、地区から強制するものではないなどが話題になった。

●**社会奉仕部会** 次期社会奉仕委員長 荒木昭文
社会奉仕部会には松崎勝一山の手分区ガバナー補佐及び立木實地区社会奉仕委員長、金子正一地区環境保全委員長が出席し開催されました。次年度の地区社会奉仕部門に関する基本的考え方は社会奉仕委員会と環境保全委員会の役割・重要性を明確に分け並列に捉えていることである。

そして、社会奉仕委員会部門では、「ロータリーの社会奉仕について」をテーマに、立木委員長より「決議23-34」を特に英文を基に判り易く解説して頂き、ロータリーの社会奉仕をより深く理解されて、各クラブは社会奉仕活動を行ってもらいたいとのことであった。

環境保全委員会部門では、「環境保全の重要性」をテーマに、金子委員長より地球の規模で最重要課題となってきた環境問題につき、地区としては「ISO1400」を前々年度のシンポジウムに継続し、更に実践的内容で取り上げ、各クラブに環境保全の重要性を啓蒙していきたいとのことであった。尚、この「ISO1400」は次年度地区職業奉仕委員会と環境保全委員会合同でテーマに取り上げる可能性があるとのことでした。

●**国際奉仕部会** 次期国際奉仕委員長 佐々木忠行
竹腰昌明次期国際奉仕委員長が開会の辞及びメンバーの紹介をした後、秋山一(パストガバナー)カウンセラーが「最近国際奉仕のプログラムが次から次へとできてきているがそれぞれの地区に適合したものを選んで活動して行くべきである」との挨拶を行っ

た。次に竹腰次期委員長が、国際奉仕委員会は、第一次世界大戦終了後1918年ソルトレークで開催された国際大会での「我二度と戦わじ」との誓いがきっかけとなり1920年に設置された事、又東京が関東大震災の被害を受けた時、いち早く世界のロータリアンが救援の手を差し伸べてくれた事を機に、日本のクラブも奉仕活動を主にする様になった等の話をされた。更に次年度の当2750地区は、第一にバギオ基金(太平洋戦争後迫害を恐れて日系人であることを隠して貧しい棄民状態にあったバギオ地区の人々を救済する基金-現在は育英資金になっている)、第2に当地区と姉妹地区である3650地区(ソウル)を主とした日韓交流活動に重点を置く方針を明らかにした。

●**ロータリー財団部会** 次期国際奉仕委員 小杉修造
カウンセラー、次期R財団委員長、丸山宏パストガバナーから財団の沿革、プログラムなどの話があり、財団副委員長竹尾正巳氏の司会で進められた。財団には教育的プログラムと人道的プログラムがあるが、近年はR I では人道的プログラムに力点を置いている。続いてシェアシステムと財団活動資金の関係が、R財団人道的援助委員会次期委員長、新藤信之氏より報告された。奨学委員会委員長、西田忠和氏より、派遣学生にはクラブでロータリーの理想や活動をもっと教育してもらいたい。学友委員長、高野伸比古氏からは帰国奨学生である学友を卓話などに呼んで、ロータリーに参加させてもらいたい。増進情報委員長、吉岡良一氏からはプログラム寄付と恒久基金の重要性について報告があった。質疑応答の後、カウンセラーの講評で財団部会は終了した。

●**米山奨学部会** 次期国際奉仕副委員長 圓谷正和
まず、①米山奨学会の概況 ②地区米山奨学委員会の役割と現状 ③米山奨学生選考の現状と施策 ④寄付金と表彰制度 ⑤米山奨学金と奨学制度の課題という各テーマの説明が約2時間あった後、活発な質疑応答が30分間続いた。特に説明で強調されたのは、①本奨学金は民間最大、かつ日本独自のものである ②世話クラブとカウンセラー制度のお陰で、文部省留学生に比べて反日感情を持って帰国する奨学生が圧倒的に少ない ③大部分の留学生は帰国してから、大学教授、官僚、研究者など、その言動が大きな影響を持つ職業に就く場合が多いので、日本に関する誤解の解消に有効である、という点であった。厳しい経済状況ではあるが、奨学生数の増加に直接つながる寄付金が増えるよう、ロータリアン皆さんのご協力をお願いしたい、ということで閉会になった。

●**新世代部会** 次期青少年交換委員長 後藤信夫
新世代部会では中村リーダーおよび岩井カウンセラーのもと①新世代プログラムの内容と方針発表-中村孝地区新世代委員長②インターアクトプログラムについて-福井衛地区インターアクト委員長③ローターアクトプログラムについて-土方正男地区ローターアクト委員長④青少年交換プログラムについて-蒲谷正文地区青少年交換委員長のそれぞれの発表があった。

新世代プログラムは3年前からの新しい考え方で、21世紀を展望した時30才までの世代を充実させていかなければならないという事でスタートした。インターアクト、ローターアクトについてはやっても良いしやらなくても良いという事でなかなか興味を示してもらえない。日頃の活動にもぜひ目をむけて欲しい。

新世代に対し我々一人一人が次の代の若者を育てるべく協議しながら円滑に取り組んで行きたいという岩井カウンセラーで結びとなった。

次週予告 6月4日 第610回例会
卓話予定 イニシエーションスピーチ
「ふるさと恵比寿・代官山」
当クラブ会員
(株)石井工業 代表取締役 石井 謙次 君

東京新南ロータリークラブ

会長: 宮武保義 副会長: 小澁雅亮 幹事: 大日方真
〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階
TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004
例会日: 毎週金曜日 12時30分
例会場: 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111

<会報委員>

田中 武、小杉 眞史、開発 英基、
柴田 尚毅、大山 啓人、T. CONSIGNY、
谷 義一、金光 圭一、大村 富俊、
村山 公士 (編集担当順)